

Optimal Measurement Level and Ulnar Nerve Cross-Sectional Area Cutoff Threshold for Identifying Ulnar Neuropathy at the Elbow by MRI and Ultrasonography

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 寺山, 恭史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032619

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3008 号	氏 名	寺山 恭史
審 査 委 員 会	主 査 教 授	坂井 修二	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>本論文は、肘部尺骨神経障害の診断における MRI と超音波の診断能を比較し、各々の最適な検査方法を検討した独創性ある論文である。肘部尺骨神経障害患者 30 名と他疾患で検査を行った 28 名で、MRI を上腕骨内側上顆を中心に 6cm の範囲で横断像を撮影し、尺骨神経の断面積を測定している。その一部の対象者では超音波検査も行っている。まず MRI による尺骨神経の断面積の計測では、患者群の上腕骨内側上顆の 1cm 近位側の断面で最大値を示すことが示された。今回の対象では、尺骨神経の断面積のカットオフ値を 11.0cm² とした場合に、感度 0.97 で特異度 0.93 となり最も診断能が高いことが示された。超音波でも同じくカットオフ値を 11.0cm² とすることで、感度 0.92、特異度 0.90 と最良の診断能となった。</p> <p>以上の結果は、過去の報告と比較して最適な測定レベルやカットオフ値となる尺骨神経の断面積に差があるものの、肘部尺骨神経障害患者の術前検査法として、大変有用性が高いと結論付けられている。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			